



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 134 号(2017 年 5 月 26 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

さわやかな季節となりました。

○新任ごあいさつ

福重さと子 准教授

みなさんはじめまして。

4 月から岡山大学法学部で働くことになりました、福重（ふくしげ）といます。

岡山大学に来て、最初に印象づけられたのは、キャンパスが広いということです。先日思い立って、北キャンパスの東の端までいってみました、なんと往復で 30 分もかかりました（私は歩くのが遅いのかもかもしれません）。また、自然も豊かです。私は家から歩いて通勤しています。県総合グラウンドの北側の国道を歩き、大学筋を上がってきますが、ここ 1 か月で街路がみるみる芽吹いて、町が黄緑色に覆われてしまいました。

岡山は、これまで新幹線で通過したことがあるだけでした。駅周辺の近代化された風景の裏に、こんなに開放的で落ち着いた空間が広がっているとは、すこし驚きです。

新しい生活というのは、どきどきし、いつも落ち着かなく感じます。

これまで、何度か引越をしました。初めての引越は、大学に入学するために京都市に行ったときです。私は宮崎県の小さな漁村で育ちましたので、人の多さ、物価の高さ、また同じ年齢の新入生が、とても大人びていることに非常に驚きました。なにより、はじめてのひとり暮らしのため、開放感と寂しさのごちゃまぜになったような感情で、いつも胸がいっぱいでした。

つぎに、北九州市に引っ越しました。このときは、はじめての就職でした。社会人になったことへの不安はあったものの、初めて自分の名前が書かれたネームプレートのついた研究室を与えられて、ようやく経済的に自立できた！という誇らしさをかみしめました。また、出身大学の異なる先生方との交流は非常に刺激的でした。

新しい生活は、いつも手探りです。場所が変われば、いろいろなことが変わります。これはどうしたらいいんだろう？あれはどこにあるんだろう？あちこちでつかえます。若いときには、そのことがはがゆくて仕方なかった気がします。今でもそういうところはありますが、その一方で、新しい世界を見ることができるということに、わくわくできるようにもなってきました。

何も知らないという状態は、気楽でもあります。ただ、研究者として、もう若手とはいえ中堅にさしかかったところ、時間のたつのも早くなり、今までのようにのんびりぼんやりとしていると置いていかれそうです。身を引き締めてがんばっていきたいです。

- ・本メルマガは、毎月 1 回程度配信しています。
- ・法学部の詳細情報に関しては、HP も併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/index.html>
- ・本メルマガには返信なさないようにお願いします。
- ・本メルマガの登録・解除は、以下の URL にてお願いします。
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/local/mail/index.html>
- ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。